



ピースデポ

平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人:梅林宏道/住所:〒223-0051 横浜市港北区箕輪町3-3-1日吉グリーンネ102
TEL:045-563-5101/FAX:045-563-9907/E-mail:office@peacedepot.org
郵便振替:00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座:横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報

No.20

2007.4.1

第8回総会報告

財政の立て直しから定着へー

皆で作る、「市民の手による 平和のためのシンクタンク」へ

湯浅一郎 (ピースデポ副代表)

2月25日、横浜ワールドポーターズ会議室で第8回総会を行いました。暖冬と言われる中で、とても冷たい風が吹きすさぶ、結構寒い日でした。池田佳代さんの議長のもと、総会の成立を確認し、06年の事業報告と収支決算報告を中村事務局長が行い、質疑の後、採決が行われました。その後、07年度事業計画案と収支予算案を湯浅が提案し、活発な質疑討論のあと、いくつかの追加項目を含めて方針が採択されました。

06年は、財政の極めて困難な情勢を踏まえて、事務局1人スタッフ体制にし、ほぼ隔月で運営委員会を開き、運営状況をチェックし、その都度、経営のあり方を微調整しながら歩みました。当初、100数十万円の赤字予算を立てていましたが、年度途中で予期せぬ委託研究が入ったこと、会費の納入・販売物の拡販などで、結果として200数十万円の繰りこし金を残すことができました。

会員正味増が5年ぶりプラスに

06年末で、会員498、モニター購読者172、計670の個人、団体がピースデポを支えています。何よりも重要なのは、会員数が、正味12人増、口数で36口増になったことです。一人紹介キャンペーンにより多くの会員の皆さんからの協力があつたからこそできたことです。改めてお礼いたします。実は、この間、毎年、50人以上の退会者が出ていまして、その中で正味増に転じることは、かなり大変な仕事でした。40人増を目指して努力した結果、目標には至りませんでした。会員数が5年ぶりにプラスに転じ、口数では目標に近い増加を見た事実をしっ

かりと押さえたいと思います。地道に努力すれば、ある程度まではいくということが実証されたと思います。

しかし、スタッフ1人体制では、事務所の運営がきわめて限られたものとなり、ピースデポの命である研究活動の停滞が懸念されました。そこで、ある程度財政の見通しがついたこともあり、07年から2人体制へと移行しました。



4つの基本方針

07年の事業計画では基本方針を4本掲げています。運動的には、「東北アジア非核地帯」促進の声を幅広くあげていくこと、米軍再編をめぐる攻防に示されるように自治体の力を引き出す取り組みの二つを特に強調しています。これらの点は、討議でも多くの意見が出されました。前者では、6か国協議の現実を直視し、ピースデポが重点的に取り組んできた東北アジア非核地帯条約の締結を打ち出す最大の機会です。そこで、6か国協議における各国政府や市民の動きをフォローする重要性が共有され、結果として核兵器・核実験モニター誌上で追跡していくプロジェクトが開始されました。「自治体と平和」でも、米軍再編問題などで、「防衛・外交は国の専管事項」というテーゼで押し通そうとする国に対して、非核宣言自治体や姉妹都

- 4月から、昨年に引き続き「一人紹介キャンペーン」を行います。ぜひご協力を!
- 「イアブック」、「ブックレット」を10部くらいずつ扱っていただける個人デポになってください。
- 皆さん一人一人の力を貸してください。



市などのネットワークを生かした取り組みの価値などが討議されました。

更に組織的には、08年の設立10周年に向けて、「色々な意味で世代交代を進めていかねばならない時期に来ている」ことを認識し、世代交代の準備を進めることが第3の柱として確認されました。具体的には、核兵器・核実験モニターの編集体制、イアブック刊行委員会の進め方、助成金の開拓などの分野で、世代交代を意識した運営を行っていくことになります。

さらなる「ひとつの力」を

スタッフ2人体制を安定的に維持していくためには、今一つの会員の拡大、販売物の拡販が必要です。4月から、昨年に引き続き「一人紹介キャンペーン」を行います。皆さんのお近くで、これぞという方に声をかけてください。会員数が少し正味増に転じたからといって立ち止まる余裕はありません。また「イアブック」、「ブックレット」を10部くらいずつ扱っていただける個人デポになっていただけないでしょうか。どのような分野でもかまいません。皆さん一人一人の力を貸してください。

総会で決まった今年の主な事業計画

(全文はホームページwww.peacedepot.org/whatspd/actvty1.htmlに)

◆4つの基本方針

- ・今こそ「東北アジア非核兵器地帯」促進の声を
- ・自治体の力を引き出す取組み
- ・設立10周年に向け世代交代への準備を進める
- ・人的ネットワークの活用

◆事業プログラム

- ・核廃絶世論形成、特に「東北アジア非核兵器地帯」促進に向けた取り組みの強化
- ・「自治体と平和」を考える調査研究
- ・核兵器・核実験モニターの発行
- ・イアブック「核軍縮・平和」の発行と販路の拡大
- ・「ピースデポ・ブックレット」、「ワーキング・ペーパー」の作成
- ・米軍の動向調査
- ・海外活動への派遣
- ・ウェブサイトの充実

◆組織体制の整備

- ・スタッフ新体制
- ・運営委員会と将来計画委員会の継続と新任務
- ・会員、モニター購読者の拡大:数値目標の設定
- ・人的ネットワークの拡充・活性化に向けた施策
- ・助成金・調査委託の開拓

(個人デポになって下さる方、事務局までご一報ください。)

東北アジアの非軍事による安全保障体制の確立、日米政府による米軍再編の一方的な押し付け、憲法九条を変えていこうとする動きなど、どれも密接に繋がった問題に対して、底力を持つ対応をしていくために、ピースデポのような活動を市民の手で保持していくことがとても大切です。◆◆

新スタッフの 氷熊克哉です



今年の1月からピースデポで勤務をしております氷熊克哉と申します。ピースデポに来る前は塾で高校生に英語を指導していました。NPOやNGOに携わる知人と接していて、そうした場に従事する機会が私にもないものかと思っていましたが、この度ご縁がありましてピースデポでお世話になることになりました。

ピースデポでは会計と調査・研究に主に携わっています。会計の業務には、大きく分けると、日々の入出金の管理、月々の報告書の作成、そして書籍販売の管理の3つがあります。1円単位の正確さを会計の業務は要求するため、今まで井勘定で生活してきました私は少々苦労をしております。収支のバランスが帳簿で食い違うときには、慌てずに計算をやり直すことを心がけています。調査・研究については、具体的には、国連の軍縮局の吸収合併問題、米のミサイル防衛、東北アジア地域の安全保障を中心に進めています。どの課題についても専門知識を有しておりませんので学習する毎日を送っております。ある課題についての個別の事柄をつなげて、その全体像を理解するのに長時間を要することが

多々あるのですが、区別ができたおりに嬉しさをいくばくか実感します。調査し理解したことを読者の皆様に正確に且つ分かり易く伝えることを考えて言葉を選ぶようにしています。

赴任してから3ヶ月が経ちましたが、ピースデポについては次のような印象をもっています。ピースデポが取り組んでいる軍縮・平和問題は少数の課題に限られることなく、多岐に及びます。ですのである問題が(それがピースデポにとって馴染みの薄いことでも)軍縮・平和に少しでも拘ることであれば、ピースデポは一から調査・研究をおこなっているということなのです。次にピースデポの運営は、その事務と調査・研究を含めて、少数の人が中心となって展開しています。事務処理をする時と調査・研究をおこなう時との集中の仕方をいみじくも切り替えないと、運営を円滑に進めてゆくことは難しいと感じます。少数の人が中心といいますが、たくさんの方のボランティアの人がピースデポの活動を支えて下さっています。「モニター」の作成や発送作業に手を貸して下さる方々、さらには「イベント」や「総会」をお手伝いして下さる方々には頭の下がる思いがします。不慣れなことが多く、代表の梅林さんや事務局長の中村さんそして他の皆様にはご迷惑をおかけすることがあると思いますが、持てる力を余す所なくピースデポの活動に注いでまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

欠席の会員からのメッセージ

総会に向けて、多くの会員の皆様から激励・ご提案・お叱りのお言葉をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。頂いたメッセージの一部を紹介します。(敬称略。順不同)

- 平和への具体的な行動をピースデポから提議頂いています。(萩尾喜久枝)
- 貴重な平和と安全保障のシンクタンクに向けて、財政的支援を積極的に申し出ようとしない日本社会の理想の貧困さが痛感されます。(土山秀夫)
- 力の論理ばかりが叫ばれる中で、ピースデポの戦わない平和作りの考えは、ますます重要になってきた気がします。(二宮敬嗣)
- 核兵器・核実験モニターを読んで、とても学ぶ部分が多いです。周りにも伝えたいと思いつつ…。(A.M)
- 厳しい財政のもとでの精力的活動に敬意を表します。(八谷まち子)
- 核兵器・核実験モニターは日常の活動でもっとも重要な資料として役立たせてもらっています。(片岡栄子)
- ピースデポの役割は多大了。(鎌田信子)
- 最近、日本中がマスメディアに引きずられる形で、日米の軍事同盟強化を支持する方向に進んでいるようで、非常にもどかしい気がします。ピースデポにはもっとhigh-profileな役割を期待します。(鶴飼礼子)
- 「ファスレーン365」は証言の会としても「地球市民集会ナガサキ」も全面的に協力しようとしています。(森口貢)
- 東北アジア非核兵器地帯化の課題が個人の生活の安全保障と結びつくような具体性をもって、国内的にも国際的にも感じられる

- ような時代に生きていることをひしひしと感じます。課題の明確化と世論の形成に努力されることを強く期待しています。(川合葉子)
- 「北東アジア非核地帯構想」の実現をめさず!!私のまわりでもその実現こそ有力な残された道と考えている人が何人もいます。(菅沼純一)
- 今年は選挙です。統一した核や憲法に対するアンケートのフォーマットを作っていたければ各地域で活用できるのですが。(有地淑羽)
- 日朝の相互不信と、アメリカの対中長期戦略への中国の軍事的対抗意識を考えると、ピースデポの「東北アジア非核」の構想には大きな期待を持ちます。知人に御会の活動を伝えることで、せめてもの協力をしていきたいと感じます。(村瀬克己)
- 日本国民であることを止めたい…などと感じていますが、みなさまの活動が私にも勇気をもたらしてくれています。(島方時夫)
- 核問題・原発問題についての「ピースデポ」を掲示、紹介していただきたいと思います。(長谷川りょう子)
- いつもいい資料をありがとうございます。沖縄からいつも参考にさせていただいております。(小橋川清弘)
- 大学院生、大学生も会員にしたいですね。核兵器・核実験モニターが年24回とすると、これだけでも誌代¥4,800。郵送料は¥2,000と

- して合計¥6,000ほど。院生・学生の会費を年¥3,000~¥2,500に設定するのは到底無理でしょうね。(須田稔)
- 今後も「軍事によらない安全保障体制の構築」という目標に向けた有益な情報提供と分析を期待します。(中島修)
- 核兵器廃絶後の安全保障体制が必要だと思います。東北アジア非核地帯構想を支持します。アジアにヨーロッパ連合のような国家を超えた政治システムの必要を感じています。国益を追求することが政治家の使命と考えられていますが、今の政治家に求められていることは、世界益の追求でなければなりません。(西山敏和)
- 非核宣言自治体は本県でも県を含めて全市町村で宣言、長崎の大会にも出席しておりますが、最近それらの声は聞かれません。東北アジアの話は核を含め、歴史認識にも立って最重要課題と考えております。御誌は欠かすことの出来ない情報であり原動力でもあります。(西成辰雄)
- ピースデポの情報、警告が益々大切になりますね。(竹村泰子)
- いつも質の高い情報をお送りいただき、毎回楽しみにしています。年会費も安いぐらいだと考えています。(小田切督剛)
- 「核兵器・核実験モニター」に興味深く読んでおります。その中には批評あり、土山秀夫さんのエッセイもありで大変よいと思います。しかし、在日アメリカ軍基地の問題についてもっと書いてもらいたいと思います。
- いつも貴重な情報、知識を提供いただき感謝します。(齊藤つよし)



総会イベント報告

東北アジアの平和と自治体・市民

総会に先立ち、2月24日に横浜ワールドポーターズ(神奈川県横浜市)で総会記念イベント「東北アジアの平和と自治体・市民」を開催しました。三重大学教授の児玉克哉さん(写真左)、神奈川ネットワーク運動・政治スクール理事長の又木京子さんをお迎えして、講演・パネル討論を行いました。

以下は、ピースデポ及びPNNDサポート事務所ボランティアの横山美奈さん(明治学院大学)からお寄せいただいた感想です。

自分に何ができるか、考えました

明治学院大学国際学部2年 横山美奈

2月24日(土)に横浜ワールドポーターズで市民フォーラム「東北アジアの平和と市民・自治体」が行われました。

フォーラムは、湯浅さんの開会挨拶から始まり、一貫して、自治体・市民が安全保障や平和構築の問題において果たす役割について議論する内容のものとなりました。

まず、ゲストスピーカーの児玉克哉さんが「国際社会における自治体の役割」というタイトルでお話をされました。私が重要であると思った点は、「自治体・市民は自らの手で、自らの将来を決定し、開発していかなければならない」とお話しされていたことです。児玉さんはこのことを「希望開発」と位置づけ、その重要性について述べられていました。

私がもう一つ重要であると思ったのは、市民ジャーナリズムについてのお話でした。「私たちが普段目にするものがない問題を、メディア任せではなく、自ら進んで情報を収集・発信し、理解・解決

しようとするのが大事である。」というお話を伺い、私自身が今までそのような努力をしたことがあるだろうかと深く考えさせられました。

次に「安全保障は国の専管事項ではない」というタイトルで梅林さんのお話がありました。私はこれを見て、国の姿勢について批判をするという内容を想像していました。しかし、実際のお話はむしろ、自治体・市民が安全保障について主体的な役割を果たすことの重要性、そしてその役割を果たせていない現状について中心的に扱っているものでした。このお話を伺い、私自身が、国の方針を批判するばかりで、自らの果たすべき役割に関して認識の低かったことを痛感させられました。

続いてパネルディスカッションがあり、児玉さんと梅林さんから更に、市民・自治体を中心とした国際関係の形成についてお話がありました。

私は、今回のフォーラムを通して、平和構築というのは、市民・自治体が自らの手で構築してゆくものであるということ強く感じ、また、今までの自らの認識の低さを反省させられました。これを踏まえ、これからピースデポのボランティアとしてさまざまな活動に参加してゆく中で、認識を高めてゆきたいと思いました。

米国土防衛が目的?

① 北ミサイル発射で米海軍 ハワイ間に作戦区域

北朝鮮が七月に弾道ミサイル発射した際、展開した。在日米海軍機とイージス艦3隻を、六月十八日、二日、明らかになった。一九九八年のテポドン1号の発射に引き、米海軍、太平洋では同日、ハワイ間の作戦区域を設定し、ミサイルの監視、追跡が可能なイージス艦三隻を区域内に配備し、任務担当の艦の必要とする調査は、日本安保条約に抵触している反発を強めている。

横濱市の特定非営利活動 北海道の松前半島から西太平洋上へ行った。動法人(NPO)法人に約百八十五名の日本、三隻は六月二十日、イージス艦が、情報公開、海上に展開、マクベは、間、作戦区域に停留、奥制度で入手した航海日誌、岩手県の久慈海岸から東、昨日日誌を四十分で、司令官の年次報告を基、に約二百七十、離れた太、ミサイルが撃ち落とされた。



コース上には、高性能のミサイル配備能力を持つ「Xバンド」があり、梅林宏道代表が配備された駆逐艦(イージス艦)は、ミサイルがどこに向かうかを分析した。同日は、海上に配備された駆逐艦(イージス艦)は、ミサイルがどこに向かうかを分析した。同日は、海上に配備された駆逐艦(イージス艦)は、ミサイルがどこに向かうかを分析した。

7月の北朝鮮ミサイル発射実験時 98年の落下点に展開

北朝鮮が今年七月五日の西約2700キロメートルの日本海上で、太平洋側のミサイル発射実験をした。98年8月の発射地点の下したとみられる。式ミサイルの落下地点は、南緯約20度、東経約130度。分離時にはミサイルの速度が下がる。ミサイルは「追撃し、探知・追跡する訓練」を、夜の6、7月の航路を分析した。米海軍は「カーティス・ウィルバー」な、米海軍の早期警戒機「Xバンド」が、相対補充してミサイルを追尾し、情報収集した。



メディアに登場したピースデポ

③ 「ハワイ標的」と展開 米イージス艦の動き判明

北朝鮮が七月五日未明から7発の弾道ミサイルを発射した際、米海軍横須賀基地所属の米イージス艦の詳細な作戦海域が米海軍の航海日誌の分析から明らかになった。日本海と太平洋に設定された。

弾道ミサイル(弾道ミサイル)を開いたイージス艦、司令部を含む重要軍事施設、イに向けて長距離弾道ミサイルが発射された場合、事態がどうなるか。

点を中心に設けられた太平洋側BMD海域の2カ所に展開した。テポドン2が発射されたこと見られる北朝鮮北東部舞水端軍日本海側BMD海域-Xバンドレーダー-太平洋側イージス艦が監視している。梅林氏は、ワシントンで米海軍歴史センターの米海軍歴史センター横須賀基地(神奈川県)を事業上、須賀市を事業上とするイージス艦が、一九九八年のテポドン1号の航跡に基づき、ハワイ攻撃を想定したミサイル防衛(MD)の作戦区域を日本海と太平洋に設定し、横須賀基地のイージス艦三隻が監視していたことが二日、分析の骨子として報告を入手した。

④ 「安保」規定外? 2海域で監視

北朝鮮が七月五日に行なった弾道ミサイル発射実験、特定非営利活動法人(NPO)法人「ピースデポ」が、米海軍のイージス艦が日本海と太平洋の二つの特定海域で弾道ミサイルの探知・追跡任務に当たるとみられる。米海軍の追跡が可能なイージス艦は、八月十六日から七月七日まで、北海道・松前半島の西方約2700

七月の北朝鮮による弾道ミサイル発射の際、米海軍が、一九九八年のテポドン1号の航跡に基づき、ハワイ攻撃を想定したミサイル防衛(MD)の作戦区域を日本海と太平洋に設定し、横須賀基地のイージス艦三隻が監視していたことが二日、分析の骨子として報告を入手した。米国の情報公開制度で入手した航海日誌などを分析したもので、梅林宏道代表は「日米安保条約で日本および極東の防衛に当たる横須賀の米艦艇が、米海軍を直接防衛する任務に就いた初のケース」としている。

北朝鮮ミサイル発射実験時(〇六年七月五日)の米海軍イージス艦の動向に関する調査結果を十一月二日の記者会見で発表しました。各紙で取り上げられました。

① 神奈川新聞、06年11月3日
② 毎日新聞、06年11月3日
③ 朝日新聞神奈川版、06年11月3日
④ 東京新聞、06年11月3日
⑤ 沖縄タイムス、06年11月3日